

分野：②生態系・生物多様性

総合的な学習の時間

環境アドバイザー

足立 圭子

対象 所沢市立宮前小学校 5年（73人）

所要時間  95分

場所 北中・水野の森

実施時期 令和2年9月9日

概要

学校近くには、県ふるさとの緑の景観地に指定されている北中・水野の森があります。この北中・水野の森の中には市民団体と市と県が協働で購入した雑木林が8カ所あり、多くの人を守り育てている状況を観察しながら、秋の野生の生きものを探します。

プログラムの
ねらい

身近な自然を観察することで、多様な生きものを守り育てる大切さに気づき、体験型授業へと繋げる。
ヤマウルシやハチなど危険な生物への対処の仕方を学ぶ。

プログラムの内容

1 学校から徒歩で雑木林へ（往復各10分）

交通ルールを守って徒歩で雑木林へ

2 雑木林の成り立ちと危険生物に遭遇した時の注意についての説明（15分）

多様な生き物が棲む雑木林を外側から観察する。スズメバチに遭遇した時の対処法を説明し、全員が騒がず動かずお互いに知らせる方法を確認する。

ヤマウルシの特徴を観察し、お互いに教え合う。

3 雑木林の多様性を体験する（50分）

最近、砂利が敷かれて固くなった道と雑木林の中の土道との違いを体験する。

陽の光の当たる明るい場所と暗い場所、樹木だけでなく野草や菌類の種類などに関心を持つ。

伐採され資材置き場になった場所の現状を観察する。

受講者の反応

ハチの説明をしている時にスズメバチが飛んできて、緊張しているこども達もいましたが、講師の指示に従い、冷静に対処できました。ヤマウルシは葉が落ち始めていましたが、熱心に観察していくと判別がつくようになったので、触らず、無事でした。

クワガタやコクワガタが見つけれ嬉しかった。

環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要

